

ゆうあい

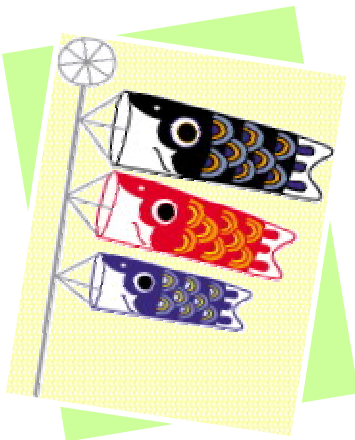
VOL.57

特別養護老人ホーム ゆうあいホーム / 大竹市養護老人ホーム ゆうあいの里 / ゆうあいホーム短期入所生活介護事業所 / デイサービスセンターゆうあいホーム / 訪問介護事業所ゆうあい / 居宅介護支援事業所ゆうあい / 訪問入浴介護事業所ゆうあい / 訪問看護事業所ゆうあい / 介護タクシーゆうあい / 小島新開の家デイサービスセンター / 小島新開の家デイサービス事業所 / 認知症対応型共同生活介護グループホームふきのとう / 小規模多機能型居宅介護ふきのとう

発行 社会福祉法人 広島友愛福祉会 大竹市玖波4-8-8 TEL 0827-57-7500 発行責任者 立山 道男



みんなで支える高齢社会を！？



平成20年10月、米国でのサブプライムローンの破たんを端を発した<100年に1度>と言われている世界同時不況が始まった。高齢者の方々にとっては1929年の世界大恐慌時代を覚えておられる方も多いのではないだろうか。当時その不況から世界が立ち直るのに、一説では約20年かかったとのこと、今回も少々では立ち直れないのではないかと思う。最近では派遣切りにより職をなくする人たちが20万人余りこれから出てくると言われており、このままではさらに景気の悪化に拍車がかかるということで、景気刺激対策として平成21年度補正予算が国会で審議されている。こういう状況の中でも高齢化は着実に進み、1億2千4百万の人口に対して65歳以上の人口がおよそ2780万人と高齢者は年々増え、その内、要支援・要介護認定者は約460万人となってきた。一方少子化による介護福祉士等養成校の学生減少と介護現場の労働条件等が

比較的良くないなどの原因で、介護従事者は養成が進まず、職に就いても離職者が多いこともあり、介護従事者の処遇改善を目的とした議員立法による法律が制定され、平成12年に介護保険制度が施行されてから2度の介護報酬のマイナス改定以来、初めて介護報酬がプラス改定とされた。

このプラス改定とともに利用者負担が若干ではあるが上がり、本人等年金生活者、あるいは家族介護者にとっては負担増となるが、併せて負担軽減のための対策がいくつか考えられている。一つには大竹市を例に挙げると介護保険料を全国平均である4140円を下回る3970円に抑えていること、二つ目には高額医療・高額介護制度による支給を受ける等の方法がある。(詳しくは担当ケアマネジャー、もしくは市役所にお尋ねいただければと思う。)三つ目には要介護認定の更新に当たり、認定に関してバラツキを是正することを目的として調査項目を82項目から74項目に絞っているがその結果、更新前より要介護度が軽くなる傾向があるとモデル事業実施後に担当者より声があがった。これを踏まえて4月に新基準施行後7月には認定状況の検証・検討をすることとなり、本人の希望があれば当面従前のサービスを確保するための経過措置が計画されているとのことである。

こうしてみると負担料が上がる一方で負担軽減のための施策がとられているのがわかる。いろいろな施策があることは知っておく必要があり、その情報を知っているかどうかで不利益になる場合もあるので情報収集について考えておく必要がある。その際に「介護」については、決して一人で抱え込もうとしないこと、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という言葉にもあるように相談することに臆しないこと、よき相談相手を見つけることなどが最も大切だと言える。身内、近隣の方々から始めて民生委員、大竹市地域包括支援センター、ケアマネジャー、大竹市認知症の人と家族の会等々いくつか相談先が挙げられる。高齢者を支えるのは地域を含めてみんなで支える心構えが今一段と求められているように思う。より良い地域づくり、街づくりを目指してお互い連携して進めましょう！皆様よろしくご協力のほどお願い申し上げます。



(ゆうあいホーム施設長 立山 道男)